



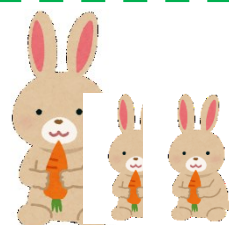
あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

さあ、学年最後となる（3年生は中学校生活最後の）3学期に突入しました。有終の美を飾ることができるよう日々を振り返り、一步一步進んでいきましょう。



今年の干支 卯(うさぎ)の本

今年の干支は卯。ウサギのように跳躍する一年にしたいです
展示してある本から一部を紹介します。



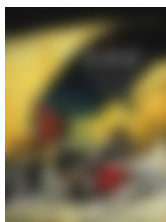
明日町こんべいとう商店街

この路地を曲がれば、そこはもう、すこし不思議な世界の入口。「招きうさぎ」がマスコットの、架空の商店街を舞台に、7人の人気作家がお店を開店し、短編を紡ぐほっこりおいしいアンソロジー。



うさぎがおしえるうさぎの本音

鳴き声、しぐさ、体のヒミツなどについて、うさぎ自身が「うさぎ目線」で解説。飼い主が思わずハッとするうさぎの本音 130 項目以上を豊富なイラストとともに紹介。4コマ漫画も収録。



ウサギ

大勢のウサギが外からやって来て大陸に蔓延し、先住者は危機に追いやられていき…。オーストラリアの作家ジョン・マーズデンの文章と、ショーン・タンの美しいイラストで語られる建国寓話譚。



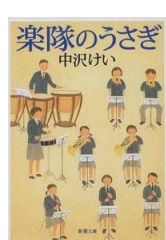
古事記

「古事記」は神話や古くからの言い伝えを書き表した日本最古の書物。日本神話としてなじみ深い話の数々が、飾り気なく力強く描かれている。みなさん、因幡の白うさぎの話はちゃんと知ってるかな？



兎の眼

題名は、奈良の西大寺に展示されている善財童子（ぜんざいどうじ）の眼が兎の眼のように美しいことからつけられた。新任教師が一人の生徒と向き合うことをきっかけに、教育や生き方について考える作品。



楽隊のうさぎ

中学生の主人公は、いじめを受けてひとりで過ごしている。あるきっかけで臆病な中学生は吹奏楽部に入部し、そこで生き生きとした自分を取り戻すブラスバンド少年の成長を描く物語。

今月の展示は・・・

- ・図書だよりで紹介した本
- ・新着本
- ・今年の干支はうさぎ！
- ・走って熱くなれ！
（マラソン・駅伝）

今月の展示から『サイド・トラック』ダイアナ・ハーモン・アシャー

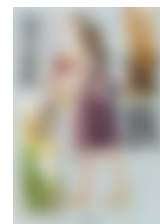
ジョセフは中学一年生。ADD（注意欠陥障害）があり、集中すべきときに気が散ってしまう。そんなジョセフが、陸上競技クラブに入るようになってしまい、クロスカントリーに挑戦する。大キライな運動。だけど、最後までやりぬくだけでいい、歩いてもいい、と監督に励まされ、なんとか続けるうちに…。



新しく入った本から…



『家族八景』 筒井康隆 B913 つ



人の心が読めてしまう超能力者の火田七瀬は、高校卒業後住み込みの家政婦として働き始める。しかし、その能力が故、行く先々で家庭の亀裂や事件をおこしてしまう。そして七瀬はその能力を悟られないよう様々な家庭を転々とするようになる。七瀬が垣間見る人の心の闇とは？

もともと続編の『七瀬ふたたび』が図書館にあったことで、こちらも読みたいとリクエストのあった作品。短編集なので、1冊の本をなかなか読み終わらないという人にもおすすめ。

『medium 霊媒探偵城塚翡翠』 相沢沙呼 B913 あ

推理作家として難事件を解決してきた香月史郎は、心に傷を負った女性、城塚翡翠と出逢う。彼女は霊媒であり、死者の言葉を伝えることができるが、そこに証拠能力はない。一方、巷では姿なき連続殺人鬼が人々を脅かしている…。ふたりはどのようにして証拠を残さない連続殺人鬼に辿り着けるのか。

キャラクターも楽しめ、また伏線が多くて読み終わった後にもう一度読み返したくなるような本格ミステリー。



1 13 5 素数は美しい? 3 1 2

12以上の整数のうち、1と自分自身でしか割り切ることができない数それが“素数”です。例えば5、13、191、3331……。残念ながら私は好きな数はあっても、数字を美しいと感じたことはありません。

数学者たちを魅了する不思議な数にまつわる話を読んで、その魅力をぜひ見つけてください。

14歳からのユートリ超絶解本

素数

謎だらけで奥が深い神秘の数

素数には「出現が予測できない」という大きな特徴がある。素数の奥深く神秘的な側面から、暗号技術まで、その魅力を紹介する。



素数ゼミの謎

吉村仁 著

13年あるいは17年おきに何億匹も大量発生する、アメリカの不思議なゼミ。17・13という「素数」に隠された謎とは。日本人科学者が初めて解いた、奇妙な奇妙な「素数ゼミ」の秘密。楽しめる科学読み物。



ぼくと数字のふしぎな世界

ダニエル・タメット 著

『ぼくには数字が風景に見える』という自伝を書いた著者が、身の回りにある数学的な発想を取り上げ、数字の不可思議なワンダーランドを紹介する。

第18章「素数の詩」では、六行六連体というおもしろい詩のかたちを紹介するとともに、日本の俳句や短歌も書かれている。エッセイのような読みやすさがあるので読んでみて欲しい。





新 着 図 書



書名	著者名	ラベル
南極ではたらく	渡貫 淳子／[著]	297 わ
「死んだふり」で生きのびる	宮竹 貴久／著	481 み
三省堂反対語対立語辞典	三省堂編修所／編	813 さ
沖晴くんの涙を殺して	額賀 滯／著	913 ぬ
十四歳日和	水野 瑠見／著	913 み
ウクライナから来た少女ズラータ、16 歳の日記	ズラータ・イヴァシコワ／文・絵	916 い
medium	相沢 沙呼／[著]	B 913 あ 1
ぼくたちのアリウープ	五十嵐 貴久／著	B 913 い
あずかりやさん [1]	大山 淳子／[著]	B 913 お 1
日曜の夜は出たくない	倉知 淳／著	B 913 く
武蔵野	国木田 独歩／ [著]	B 913 く
カゲロウデイズ [1]	じん(自然の敵 P)／著	B 913 じ 1
家族八景	筒井 康隆／著	B 913 つ
わたしの美しい庭	凧良 ゆう／[著]	B 913 な
風に恋う	額賀 滯／著	B 913 ぬ
跳べ、暁!	藤岡 陽子／[著]	B 913 ふ
恋する寄生虫	三秋 縋／著	B 913 み
向日葵の咲かない夏	道尾 秀介／著	B 913 み